編集後記

▼上越市の母子二人暮らしの家庭で母が死亡、重度心身障害者の息子が餓死するという事件（九一年五月）。十日町市で重度精神薄弱者の娘の施設入所を断られた高齢の母が娘を絞殺、無理心中を図るという事件(同年六月)。重度身体障害者更生援護施設の整備は全国四七位。精神薄弱者更生援護施設は全国二九位（九一年版『統計でみる県のすがた』）。また、中学校特殊学級卒業者の進学率は全国最下位、養護学校高等部の進学率はワースト四位（九一年三月卒業生）等。新潟県の障害者問題は、課題が山積しています。

▼しかし、八九年と九二年の知事選挙の争点のひとつにもなった養護学校高等部の学級増は、「新潟県障害児の後期中等教育「高等部」の保障をすすめる会」の運動等もあり、六六学級から七八学級（九二年度）に増加。昨年は全国障害者問題研究会が新潟市で開かれました。

▼障害児教育も障害者問題のなかにあるという立場で特集しました。（吉田）

▼今回の特集は県の障害者問題である。この問題を正面から取り上げたものは県内にない。竹内、新田、池田論文をじっくり読んでもらいたい。

▼私も九三年夏の全国障害者問題研究会に一役員として参加した。障害者の方々と家族の方それに教師とボランティアの人々の三者が一体になっている大会で感動した。民間教育団体の中でも異彩を放つ大会である。

私たちは障害者の方々と直接交流がないために頭で平等だと思っていても実障の場面で接し方に臆することが少なくない。私たちも積極的に障害者の方々と交流してゆきたいものである。

▼さて、中学校では業者テストの波紋がまだ続いている。新潟市内の連携テストに学校が関与しないことを校長会で改めて確認している。西地区のB中学校の父母の投書に端を発したものである。そのため市内の中学校は対応にとても右往左往している。今迄の経過を木村報告で理解していただきたい。（小林）

▼車をもって北海道千五百キロの旅をしました。十七時間のカーフェリーの船旅の間は担当した「教育動向」の原稿の仕事をしていました。新米の編集員は原稿仕上りの目途を立てるのがまだできません。編集長はとても困っているのでは……。十勝岳麓の富良野が一番印象的でした。「北の国から」の風景が目の前にひらけ、ラベンダーが本格的に咲き始めていました。倉本聡さんの思い、アイヌの人たちの思い、コロポックルの住む森が語りかけてくることば、中国生れの和人の私の心に何故か強くひびきます。

▼ルポ「渡辺トクさん」では教育、福祉の法がどのように障害者たちに生きて働くのかという事を何も知らない、いや考えたことのない自分を見つけました。赤面しました。（本田）

にいがたの教育情報 No. 38

1994年7月20日発行

編集・発行　にいがた県民教育研究所

発　行　人　長﨑　明

新潟市東中通1－86　山崎ビル2F

〒951　電話（025）228－2924

振替口座・新潟4－12332

印刷所　㈲中央印刷さあびす

本誌内容の無断転載を禁じます。

にいがた県民教育研究所創立10周年

記念祝賀会と中沢桂リサイタル

中沢 桂さん

中国・ハルビン生まれ。戦後両親とともに新潟へ。高校のとき音楽の先生の勧めでコンクールに参加し、特賞を受賞したのが声楽の道に進むきっかけだったといいます。

1959年、オペラ「ルサルカ」の日本初演で「ルサルカ」を歌ってデビュー。翌年「プラハの春国際音楽コンクール」で第3位受賞をはじめ、1977年「第5回ウィーンナーワールドオペラ大賞」受賞など内外の数かずの賞を受賞してきた、日本を代表するプリマドンナです。

日本のオペラでも「夕鶴」の「つう」は当たり役で、外国公演でも好評を得ています。「日本の歌をだいじに育てていきたい」というのが中沢さんのねがいです。

東京音楽大学教授、ビクター専属。

■日 時

1994年12月25日

11：00～14：30

■会 場

ホテルイタリア軒

■内 容

第1部/祝賀セレモニー

中沢桂リサイタル

第2部/祝賀レセプション

◇参加券：8,000円

お近くの理事、または直接にいがた県民教育研究所までお申し越しください。

（TEL 025-228-2924）

リサイタルプログラム

◆**この道** …… 山田　耕筰

◆**からたちの花** …… 山田　耕筰

◆**初　恋** …… 越谷達之助

◆**二十三夜** …… 山田　耕筰

◆**宵待草** …… 多　忠亮

◆**サルビア** …… 中田　喜直

◆**「夕鶴」より　さよなら** …… 團　伊玖磨

◆**「ジャンニ・スキッキ」より　私のお父様** …… プッチーニー

◆**「トスカ」より　歌に生き、愛に生き** …… プッチーニー

ピアノ伴奏　腰塚賢二さん